

平成21年度  
荒川区区政改革懇談会

提言書

地域のコミュニティ力をいかに高めるか

<地域の人材がコミュニティに参加するきっかけづくり>

<地域の資源と地域の課題をコーディネートする仕組みと場づくり>

<地域組織の連携と活性化のための仕組みづくり>

平成22年3月



## 提言にあたって

近年の長引く不況により、私たち区民の生活を取り巻く状況は厳しいものとなっています。そして、地域では、ご高齢の方やお子さんの見守り、防災防犯をはじめとする多様な課題が山積し、区のサービスに対する期待も一層高くなっています。

荒川区は、私たち区民に向けて様々なサービスを展開しており、全国行政サービス調査で高い評価を受けています。

一方で、各種サービスの情報をはじめ、区政に関する様々な情報が私たち区民一人ひとりに行き届き、その便利さを実感できるようになるには、様々な工夫の余地があるものと思います。サービスの受け手である私たち区民自身がどうあるべきかを考え、その思いの丈を区に直接伝えていくことが必要であると考えています。

こうした認識の下で、私たち荒川区区政改革懇談会委員は、今後私たちが地域で安心して暮らしていくためには、区だけでなく、区民を含めた様々な活動主体がともに地域のことを考え、力を合わせて取り組み、地域の課題の解決を図ることが重要であると考え、これまで議論を重ね、区に様々な提言を行ってまいりました。

現在のメンバーで活動した第3期の懇談会では、平成19年度から「地域コミュニティを高めるには」という視点で議論を重ね、21年度においては「コミュニティへの参加のきっかけづくり」「地域資源と地域課題のコーディネート」「地域組織の連携と活性化」の三点について、地域で様々な活動している方々の生の声を伺ったり、委員が自主的に議論の場を設けるなど、より実践的な議論を行ってまいりました。

こうしてまとめた今回の提言は、懇談会でのこれまでの取組の成果を活かし、区と私たち区民、更には地域の様々な活動主体が力を合わせ、ともに地域の課題を解決していくことを指向するものです。

区に対しては、本提言の趣旨を活かして、幸福実感都市を実現するためにこれまで以上に区民を幸せにするための政策を推進していくことを要望するとともに、私たち委員も、懇談会で得た知識や問題意識を活かし、地域コミュニティの担い手として、今後も地域に関わる様々な方々と協力してより良い地域づくりを進めてまいります。

平成22年3月

荒川区区政改革懇談会 座長 櫻井善忠



# 目次

I. 区政改革懇談会について.....	7
1. 区政改革懇談会の目的 .....	7
2. 区政改革懇談会のこれまでの活動.....	7
II. 平成21年度のテーマについて.....	8
1. 平成21年度 区政改革懇談会の活動目的 .....	8
2. 平成21年度のテーマ .....	9
3. 各テーマの論点.....	10
III. テーマ別提言.....	17
1. テーマ1<地域の人材がコミュニティに参加するきっかけづくり> .....	18
2. テーマ2<地域の資源と地域の課題をコーディネートする仕組みと場づくり> .....	24
3. テーマ3<地域組織の連携と活性化のための仕組みづくり> .....	30
IV. 総括 .....	35
V. 活動経過.....	36
VI. 平成21年度荒川区区政改革懇談会委員名簿.....	37



## I. 区政改革懇談会について

### 1. 区政改革懇談会の目的

区政改革懇談会は、区政に対して、区民が住民の視点から自由に議論し、政策提言を行うことを目的としている。

### 2. 区政改革懇談会のこれまでの活動

- ・ これまで、平成17年度から3期にわたり活動を行ってきた。
- ・ 第1期（平成17年度）では、「荒川区の将来像」をテーマとし、世代・ライフスタイル別のグループにおいて議論し、提言を行った。
- ・ 第2期（平成18年度）では、「地域活性化・暮らしの安全」「福祉・健康・子育て」「まちづくり・環境」「教育」をテーマとし、テーマ別のグループにおいて議論し、提言を行った。
- ・ 今期は第3期（平成19年度～21年度）にあたり、「地域のコミュニティ力をいかに高めるか」をテーマとし、平成19・20年度においては、「防犯」「福祉」「子育て」の視点から、地域別のグループにおいて議論し、提言を行った。
- ・ 平成21年度においては、平成19・20年度の提言内容を更に自分たちの手で具体化し、実現するための方法について議論を行った。

## Ⅱ. 平成21年度のテーマについて

### 1. 平成21年度 区政改革懇談会の活動目的

- ・ 平成19・20年度においては、地域ごとのグループにおいて地域のコミュニティの活用による「防犯」「福祉」「子育て」の諸課題への対応策について検討し、提言を行った。
- ・ 平成19・20年度の提言から、「具体化に向けて平成21年度に検討したいテーマ」として、各グループから以下のテーマが挙げられた。

#### <平成20年度の提言>

南千住グループ	町屋グループ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人材を活用するための人材登録制度</li> <li>・ 民生委員活動のあり方と民生委員への支援</li> <li>・ 行政の申請主義から掘り起こし主義への転換</li> <li>・ 空き店舗の活用</li> <li>・ 汐入地区の防犯</li> </ul>	尾久グループ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会貢献への啓発・評価活動</li> <li>・ ボランティアのあり方</li> <li>・ 地域における人のつながりの形成</li> <li>・ 尾久地域の住民の活動拠点づくり</li> <li>・ 地域組織の連携・統合と、地域から協力・協働の仕組みの形成</li> </ul>
荒川グループ	日暮里グループ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町会・PTA、中高生等との対談と交流の場づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域と交流するきっかけとなる場づくり</li> <li>・ 地域をつなぐコーディネーター役</li> <li>・ 地域メディア(コミュニティメディア)</li> </ul>

- ・ 平成21年度においては、平成20年度の提言を自分たちの手で具体化し、実現するためにはどのようにすればよいのか、という更に前進した視点に立ち、「地域コミュニティ力を高めるための区民の主体的な取組」について企画を行うことを活動目的とした。

## 2. 平成21年度のテーマ

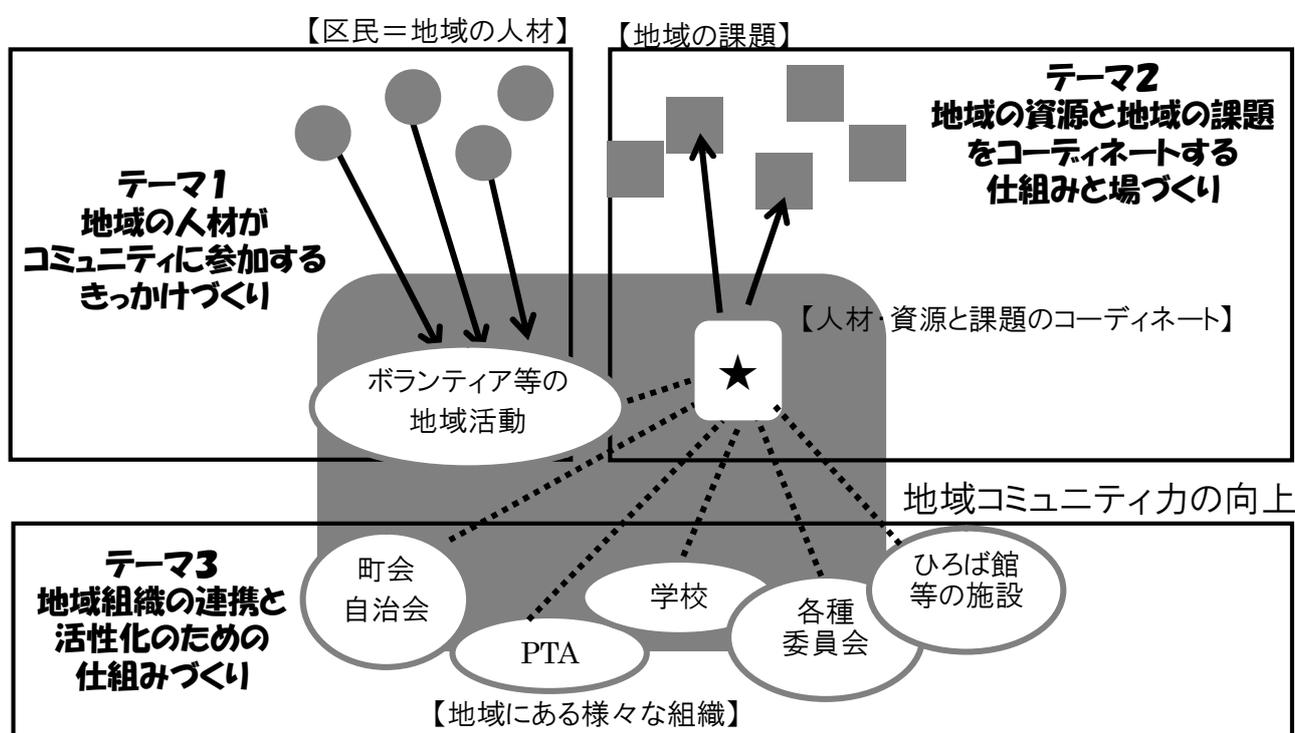
- ・ 平成21年度は平成20年度の提言を基に、テーマを3つに再構成して検討を進め、それぞれ事業計画を作成した。

<テーマ1> 地域の人材がコミュニティに参加するきっかけづくり

<テーマ2> 地域の資源と地域の課題をコーディネートする仕組みと場づくり

<テーマ3> 地域組織の連携と活性化のための仕組みづくり

3つのテーマ イメージ図



- ・ これらの3つのテーマは、それぞれ関連し合うものだが、3つの異なる切り口から検討を行った。
- ・ グループ分けは、地域別グループに関わらず、それぞれの委員の関心によって再編成した。

### 3. 各テーマの論点

#### (1)テーマ1 <地域の人材がコミュニティに参加するきっかけづくり>

- ・ 定年退職者や主婦などの地域にいる人材が、ボランティア等の地域活動に参加するきっかけをつくる。
- ・ また、その活動を持続させるためには、どのような仕組みが必要か。

#### ◎参考◎

##### <平成20年度の提言のうちテーマ1に関連する事項>

#### ●気軽に地域活動に参加しにくい

- ・ 子どもの登下校時の安全見守りなど地域活動に参加したいが、そうした活動は有償のボランティアや行政と関わりのある人が行っており、気軽に参加できない状況である。

#### ●余った時間を利用して地域貢献のできる仕組みづくり

- ・ ボランティア活動をしたと思ったときに、気軽に参加できる仕組みをつくることで、広く浅く助け合いの環をつくる。

#### ●気軽に末永くボランティアができる仕組みづくり

- ・ 専門的なことはボランティアでは手に負えないが、自分の特技や余った時間を気軽に提供できるようなボランティアの仕組みが必要である。
- ・ 善意だけでは長続きしないので、モチベーションが継続する仕組みがあるとよい。

#### ●お互い様になれる仕組みづくり

- ・ 支援を受けるばかりでなく、場合によってはボランティアをする側になれるような仕組みであるとよい。地域通貨のようなものを介在させ、支援を受けた対価を支払ったり、ボランティア報酬を受け取れるような仕組みがあるとよい。

##### <平成20年度の提言のうちテーマ1に関連するアイデア例>

#### ○ボランティア活動員登録制度

- ・ 誰もが地域活動に参加しやすい仕組みとして、行政と地域住民の中間的な『ボランティア活動員登録制度』をつくる。
- ・ 区が『ボランティア活動員』への研修を実施し、研修を受けた者に身分証明書となる証書やバッジを発行する。

○手軽にボランティアができる仕組み

- ・ 雨樋の掃除など、簡単な事でもちょっと困ったときに手助けを求められる仕組みになるとよい。
- ・ ボランティアをする側も、空いた時間を使って無理なく続けられるとよい。
- ・ 初心者は具体的に何をすればよいか分からない場合があるので、ボランティアへの指示ができるコーディネーターのような役割を果たす人が必要である。

○ボランティアのマイレージ化の仕組み

- ・ 荒川区でボランティアをした結果を『マイレージ』のポイント化し、地方に住む自分の親の介護サービスへの支払いに利用できるとよい。

**【関連する平成20年度提言：南千住グループ、町屋グループ】**

## (2)テーマ2 <地域の資源と地域の課題をコーディネートする仕組みと場づくり>

- ・ 地域にある人材や情報などの資源を集め、地域の困り事を解決するためのコーディネートを考える。
- ・ そのために必要な場や仕組みとは。

### ◎参考◎

#### <平成20年度の提言のうちテーマ2に関連する事項>

##### ●地域資源が豊富だが活用されていない

- ・ 地域には指導者（元学校の先生など）、首都大学東京荒川キャンパス（保健医療分野）や東京女子医科大学東医療センターなど、豊富な地域資源があるが、地域活動との結びつきが弱い。

##### ●地域資源を活かせる拠点の場づくり

- ・ 地域資源を活かしたあらゆる活動の拠点をつくりたい。
- ・ 活動拠点となる場ができれば、今後、地域貢献型の多様な活動が区民の手でできる。
- ・ 町会に頼るのではなく、子どもや大人が集まる場と組織を考えていくことが必要である。
- ・ 友達ができる、話し相手を見つけられる、そこに行けば地域や福祉サービスの情報が分かる場が必要である。
- ・ 場ができ、つながりができれば、行政に今までやってもらっていたことも自分たちでできるようになる。

#### <平成20年度の提言のうちテーマ2に関連するアイデア例>

##### ○コミュニティの核となる場を既存の施設に設置

- ・ 困ったときの相談窓口、困っている人を見つけた際に相談できる場、ちょっとしたおしゃべりなどができる場、ボランティアの受付窓口など、コミュニティに関するあらゆることを扱う場所を既存施設内に設置し、運営を各種専門家と住民ボランティア、施設管理者で運営する。
- ・ 商店街の空き店舗や学校の空き教室を利用して住民参加で活動の拠点づくりを行う。
- ・ 区民に自由に開かれ、参加しやすい施設運営を基本にして、幅広く参加を呼びかけ、また、公募募集し、皆で運営方法を定める。

○地域をつなぐコーディネーター役をつくる

- ・ 町会に行政と、地域活動、地域の人々をつなぐコーディネーターになる人を育てる。
- ・ 行政情報を地域の人たちに伝えるために、地域の知恵者を醸成し、常にたまり場にいるようにする。そこに行けば情報があると分かる仕組みにする。

○CATVやインターネット等による地域情報の提供

○国際交流による地域づくり

○学校や大学・若者のネットワークをコミュニティに結びつける

【関連する平成20年度提言：南千住グループ、尾久グループ、日暮里グループ】

### (3)テーマ3 <地域組織の連携と活性化のための仕組みづくり>

- ・ 町会・自治会、PTA、学校など、地域にある組織の連携を図り、それぞれの活動も活性化させるための仕組みを考える。
- ・ そのために必要な人材育成の方法とは。

#### ◎参考◎

##### <昨年度の提言のうちテーマ3に関連する事項>

#### ●町会と地域との連携

- ・ 防犯活動は町会単位で行うのが一般的だが、町会に加入していない家庭や町会加入率の低い地域からも参加者を積極的に募る必要がある。
- ・ 町会は、学校や保育園に加え、マンション管理組合と連携を図るべきである。
- ・ 町会は、各地域の特性に合った連携の仕方を構築する必要がある。

#### ●町会は人材不足に陥っている

- ・ コミュニティの核になるのは、町会・自治会である。しかし、昼間仕事をしている人が参加しにくいなどの理由から、町会は人材不足になっている。
- ・ 町会は、区の情報提供の重要なルートであるが、上手く機能していない。

#### ●町会の情報伝達の方法を改善する

- ・ 区が情報提供の窓口にしているのは町会連合会である。しかし、各町会連合会からその会議に出席する人数が少なすぎるせいか、各町会まで情報が浸透しない。

#### ●町会の透明性確保と活性化

- ・ 町会はもっとオープンにして誰でも気軽に出入れるようにするだけでなく、町会もどんな人を求めているかが分かるように発信する事が大事である。

##### <平成20年度の提言のうちテーマ3に関連するアイデア例>

#### ○小学校区・町会連合会単位のコミュニティ形成

- ・ 現在、100以上の町会があるが、これでは細かすぎる。小学校区程度の規模、世帯数では1000世帯以上あれば、町会も上手く機能できるのではないかと。町会連合会を単位にしてコミュニティを考えたらどうか。

○『地域安全連絡員』による町会と地域の連携

- ・ ボランティアを募集し、防犯、防災、交通安全を横断した(仮称)『地域安全連絡員』を設置する。区が、町会加入について賃貸マンションも含めた全てのマンションに働きかけることによって、全体として防犯活動を高める。

○町会による情報伝達の仕組みづくり

○マンション世帯町会加入の働きかけ

○ひろば館を核にした子ども会の再生

【関連する平成20年度提言：荒川グループ、日暮里グループ】



### Ⅲ. テーマ別提言

平成21年度は、テーマ別に3つのグループを結成し、それぞれのテーマに沿って事業計画を検討した。

#### 【テーマ別提言の概要一覧】

テーマ1 <地域の人材がコミュニティに参加するきっかけづくり> P18	
<p>&lt;タイトル&gt; <b>地域で「半歩のおせっかい」をしていこうプロジェクト</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な所にボランティア等の活動情報が乏しく、気軽に活動を始めるきっかけがないことを課題とし、地域で「半歩のおせっかい」をできる環境をつくる計画。</li> <li>・日常的に訪れるコンビニ等に、活動情報を掲示する掲示板を設置する。情報の整理・管理はボランティアセンターを中心とした体制をつくり、掲示物の張り替え等は管理ボランティアが担う。</li> <li>・まずは地域内で情報を手軽に手に入れられる環境をつくり、将来的には地域ごとに情報の収集、整理、管理ができ、地域内で情報と人を結び付けることができる環境を目指す。</li> </ul>
テーマ2 <地域の資源と地域の課題をコーディネートする仕組みと場づくり> P24	
<p>&lt;タイトル&gt; <b>地域住民が集まり、人と人をつなぎ、新しい活動が生まれるプロジェクト</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様で活発な区民活動、大学等の地域の社会資源を豊富に有している環境を活かし、これらが交流する場及び、これらをつなげ新しい公共を生み出すコーディネーターを育成する計画。</li> <li>・交流の場は地域にある各種施設を利用しながら場づくりを行うとともに、コーディネーターを地域のまちづくり活動を通して育成する。</li> <li>・区民と区が協働して地域課題に取り組む力を生み出し、互いに助け合い、下町の良さを生かした住みやすいコミュニティを目指す。</li> </ul>
テーマ3 <地域組織の連携と活性化のための仕組みづくり> P30	
<p>&lt;タイトル&gt; <b>“地域コーディネーター”による地域の活性化プロジェクト</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域組織の人材不足等を背景に、より大きな地域コミュニティづくりを課題とし、様々な地域組織が連携を図るための“コーディネーター”を地域に配置する計画。</li> <li>・“地域コーディネーター”は、地域の情報、人、組織のつなぎ役を担い、プロとしての“連合会コーディネーター”と、住民によるボランティアの“町会マネージャー”からなる。</li> <li>・これにより、地域や区の情報提供が効果的に行われ、地域の課題を気軽に相談しやすい地域、地域の課題を地域で解決できるまちづくりにつながる。</li> </ul>

## 1. テーマ1

### <地域の人材がコミュニティに参加するきっかけづくり>

#### (1)提案の背景

##### ○地域やボランティアの情報に接する機会が少ない

- ・ ボランティア活動をしたいと思っても、日常的に目の触れる場所に情報がなく、始めるにあたっての敷居が高い。
- ・ 地域内に行政や町会などの掲示板は多くあるが、ボランティア活動など管轄外の情報を掲示することができない。

##### ○地域の担い手が不足している

- ・ 地域のコミュニティが衰退しており、地域内での助け合いがなされにくくなっている。
- ・ 町会等で活動している人材が固定化しており、気軽に地域の活動やボランティア活動に参加しづらい環境にある。
- ・ 大人だけでなく、将来の担い手となる子どもの世代から、地域の活動に参加できるようにする必要がある。

## (2)事業計画

### タイトル

## 地域で「半歩のおせっかい」をしようプロジェクト

### 現状と目的

#### ○現状の問題点等

##### 地域情報の入手先がない

- ・ 地域内に町会や区の掲示板はあるが、それぞれ管轄の情報しか掲示されない。もっと地域に関する活動やボランティア等の情報を手軽に手に入れられるようにし、気軽に活動を始められるようにしたい。

##### 地域の希薄なコミュニティ

- ・ コミュニティが希薄になったため、地域にどのような人がいるか分からなくなってしまっており、地域内での助け合いがしづらくなっている。

##### 将来の担い手不足

- ・ コミュニティが希薄になったため、地域に将来に渡って担い手となれる人材が不足している。

### 目標像

#### ○こうなってほしいというイメージ像

##### 気軽に活動を始められる状態

- ・ 日常的によく利用する場所で手軽に活動の情報に触れることができ、気軽に活動を始められるようにする。

##### 地域の中で助け合いができる状態

- ・ 地域の中に気を配り、地域内で互いに助け合いができるようにする。

##### 地域の中で次を担う人材を育てられる状態

- ・ 子どもを含めた地域の若者が、自主的に地域活動に参加しているようにする。

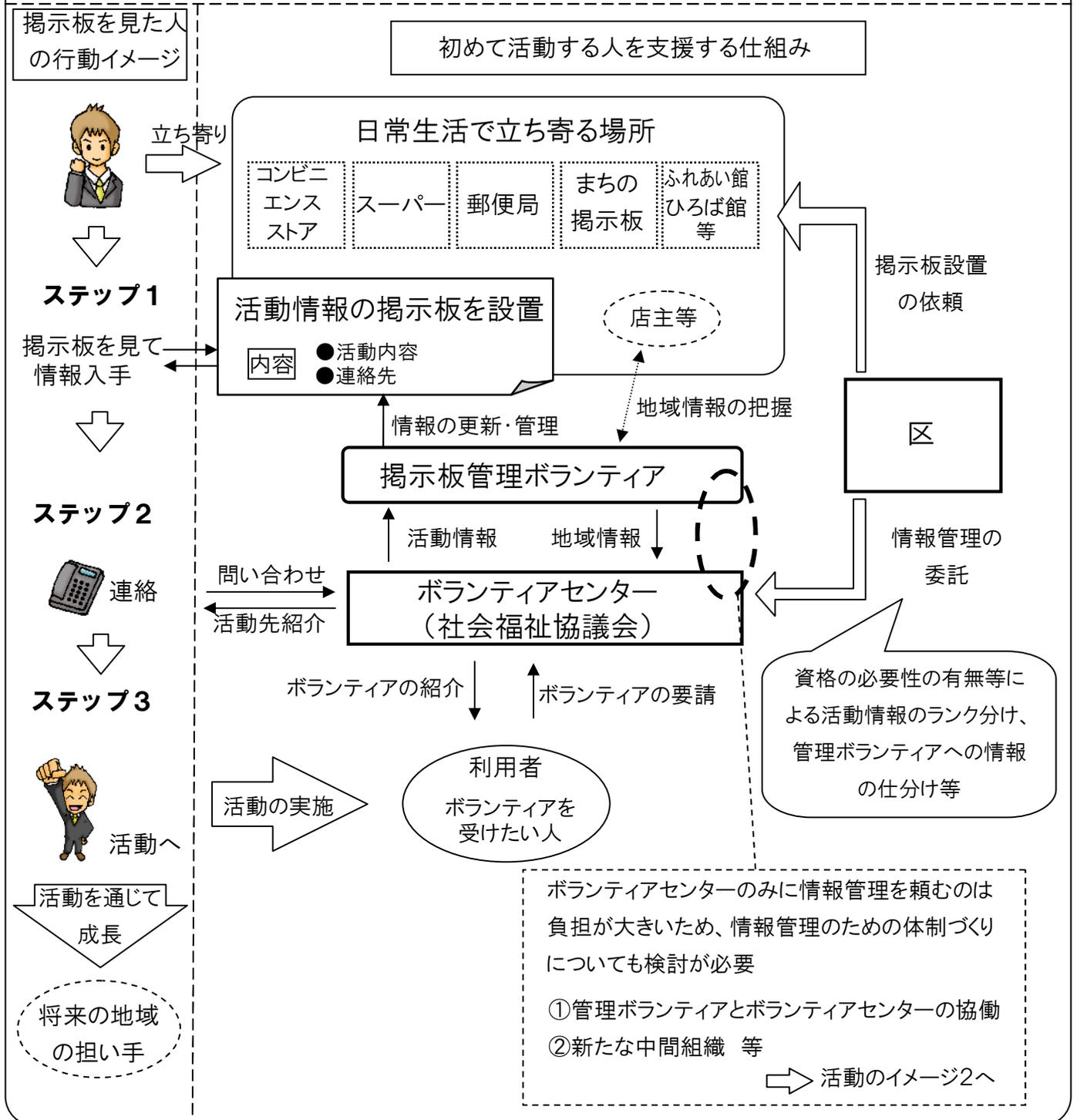
##### 地域の人が集い、地域情報に触れることができる場がある

- ・ 地域の人や情報が集まり、互いにつながる場がある。

# 活動のイメージ1（日常的に立ち寄る場所での情報の提供）

## ■ 地域でボランティア活動を始めのきっかけを示す仕組み

- 日常生活の中で立ち寄る場所、目にする場所にボランティアの情報を掲示し、情報を見て活動に興味を持った人が気軽に問い合わせできる仕組みを地域の中につくる。



## ○ 日常的に立ち寄る場所での情報の提供

### 1. ボランティア情報の掲示

- ・ コンビニエンスストアのほか、郵便局やスーパー、個人商店、区施設等、日常的に立ち寄る場所にボランティア情報を掲示する掲示板を、区の依頼により設置させてもらう。
- ・ コンビニエンスストアは地域内に多く存在し、宅配便や郵便、銀行等の各種サービスに対しては、新たに一部の自治体で住民票の発行が始まるなど、24 時間公共サービスを提供できる出先機関としての役割を果たしつつあり、掲示板設置の第一候補として検討する。



- ・ 町会の協力を仰ぎ、町会の掲示板にボランティア情報を掲示させてもらう。

### 2. 掲示板の管理

- ・ 地域活動の一環として掲示板の管理ボランティアを募り、掲示情報の貼り替え等の管理をしてもらう。

### 3. 地域情報の把握

- ・ 個人商店等の掲示板設置協力者と連携し、地域の情報を把握する。

### 4. 情報の整理・管理

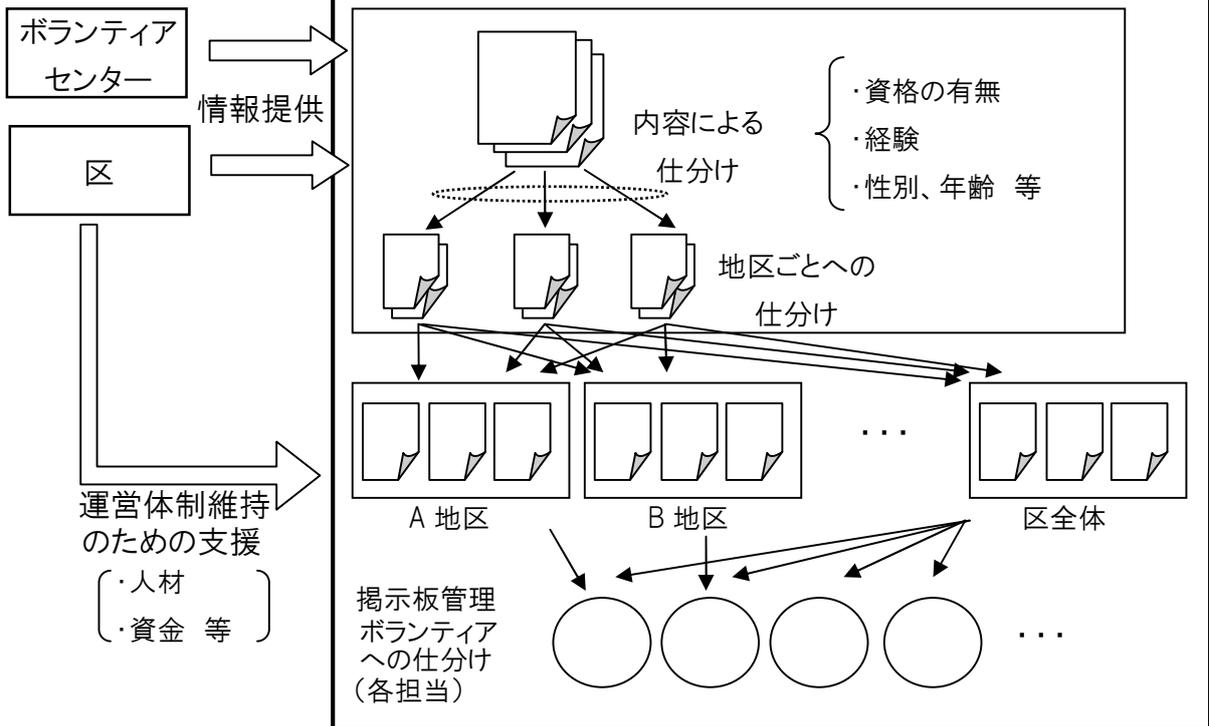
- ・ ボランティアセンターに対し、区から情報の整理・管理の委託を行う。
- ・ ボランティア情報は資格の必要性の有無等でランク分けし、ボランティアをしたい人が活動に取り組みやすいようにする。
- ・ 掲示板の管理ボランティア等と協働して、情報を整理・管理する体制づくりについても検討する。

## 活動のイメージ2（活動する人と活動情報が集まる場所をつくる）

### ■ 地域の中に活動する人と情報が集まる場所をつくる仕組み

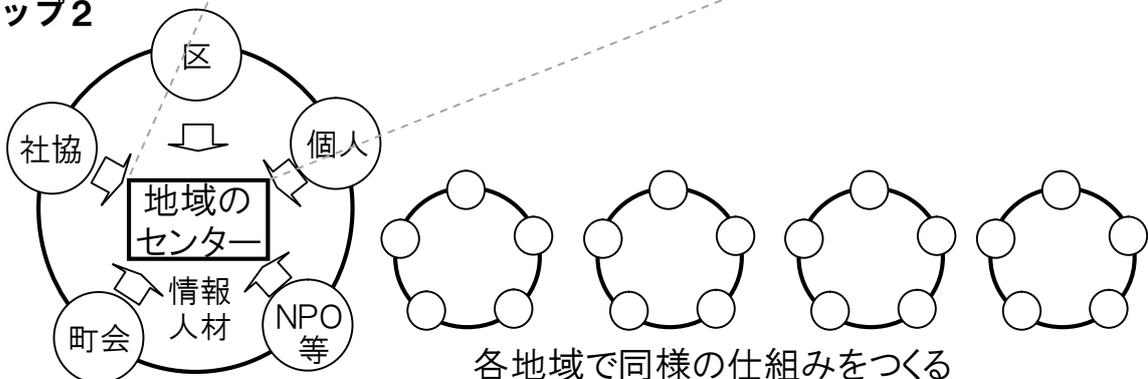
- 現在の組織体系で、ボランティアセンターのみが情報を整理・管理するのは負担が大きく、活動が頓挫する可能性が高い。ボランティアセンターを中心とした情報の整理・管理を行う体制を区としてつくり、将来的に各地域に、活動する人も情報も集まる場を設置していくことを目指す。

#### ステップ1



将来的に地域の中でこれらの作業を担えるようにする

#### ステップ2



## ○ 地域に、活動する人と活動情報が集まる場所をつくる

1. ボランティアセンターの負担が少ない、情報の整理・管理体制をつくる。
  - ・ 現在の組織体系で、ボランティアセンターのみが情報を整理・管理するのは負担が大きく、活動が頓挫する可能性が高いため、まずボランティアセンターを中心とした情報の整理・管理を行う体制をつくる。
  - ・ 体制づくりに際しては、ボランティアセンターに任せきりにするのではなく、区が支援を行う。
2. より地域に応じた情報を手軽に手に入れられるようにする。
  - ・ 将来的に、ひろば館やふれあい館を中心に、地域の中にこの機能を移行し、地域の人と区、各活動団体等を結び付ける場となることを目指す。
  - ・ ボランティアセンターが持つボランティア情報だけでなく、区や様々な行政関連組織が有する情報、町会等の地域情報を集約し、地域で情報を欲している人とつなげるようにする。

## ○ その他

1. 地域で住民同士の顔をつなぐ活動づくり
  - ・ 声かけ活動や、日常生活の困りごとのお手伝い等、身近なところで助け合えるようにする。
  - ・ 地域の中で気付いたことがあった際、地域の窓口となる人や社会福祉協議会等に報告できる体制をつくる。
2. 従来からの地域活動の継続
  - ・ 地域内の清掃活動等、これまで地域で続いてきた活動が今後も継続できるよう、地域で後押しする。
3. 取り組みやすい活動
  - ・ 地域の人が、自身が興味のある活動に取り組みやすいよう、テーマを絞って活動を設定する。
  - 地域の要望や必要に応じて活動の種類は変えていく。
4. 次の担い手を育てる
  - ・ 地域にいる様々な人が地域に目を向けるきっかけとなるよう、イベントの企画をする。
  - ・ 子どもや若者が自然と次の担い手になれるよう、学校教育の一環でボランティアや地域活動に取り組むよう要請する。
  - ・ 活動への参加を通じて次の地域の担い手が育つようにするため、活動情報を簡単に手に入れられるようにする。
5. 区との連携
  - ・ ひろば館等の地域の拠点だけでなく、区役所にも活動情報と活動する人をつなぐためのコーナーを設け、「あそこに行けば情報がある」という状態をつくる。
  - ・ 同じ地域の中での活動でも、管轄が異なれば活動間のつながりをつくるのが難しい。区と地域のつなぎ役が各活動主体の間に立つことで、横の連携を取れるようにする。

## 活動の結果どうなるか？（事業計画のポイント）

### ○活動の提供者側にとってどう良くなるか

- ・ より地域の人々の目につく場所に活動の情報を掲示する事ができる。

### ○活動の利用者(特に区民)にとってどう良くなるか

- ・ 地域の中でどのような活動をすることができ、どうしたらそれに参加することができるか分かる。
- ・ 地域内のことを把握することができ、自身がどのように活動をしたら良いか分かる。

## 2. テーマ2

### <地域の資源と地域の課題をコーディネートする仕組みと場づくり>

#### (1) 提案の背景

##### ○豊富な地域資源が活用されていない

- ・ 地域には指導者（元学校の先生など）、首都大学東京荒川キャンパス（健康福祉学部）や東京女子医科大学東医療センターなど、豊富な地域資源があるが、地域活動との結びつきが弱い。

##### ○多様な活動をつなげることにより大きな力になる

- ・ 地域には多様な活動がすでに存在し、これらも貴重な地域資源であるが、区民の活動が連携されていない。互いに連携すればより大きな効果が発揮でき、活動内容の幅も広がる。

##### ○地域資源を活用するためのコーディネートする仕組みや人材が必要である

- ・ 地域でのネットワークを持ち、地域資源（人材や活動など）をコーディネートできる人やグループが育っていない。
- ・ コーディネートする人やグループは自然成長的には育たない。社会的認知も必要だ。
- ・ 意識的に仕組みとしてつくり上げることが必要だろう。

##### ○地域資源を生かすための、プラットフォームのような場が必要である

- ・ 地域資源を活かしたあらゆる活動の拠点をつくりたい。活動拠点となる場ができれば、今後、地域貢献型の多様な活動を区民の手で行うことができる。
- ・ 町会に頼るだけでなく、子どもや大人が集まる場と組織を考えていくことが必要である。
- ・ 超高齢社会を迎えるため、活動のプラットフォームのキーは、介護と子育てとする。
- ・ 友達ができる、話し相手を見つけられる、そこに行けば地域や福祉サービスの情報が分かる場が必要である。
- ・ 場ができ、つながりができれば、行政に今までやってもらっていたことも自分たちでできるようになる。

## (2)事業計画

### タイトル

## 地域住民が集まり、人と人をつなぎ、新しい活動が生まれるプロジェクト

### 現状と目的

#### ○現状の問題点等

##### 地域組織の連携がうまくいっていない

- ・ 町会、商店街、区民の各種活動は活発だがつながりが薄い。
- ・ 若者の地域ネットワークがあるが、地域組織との連携がない。

##### 地域資源が豊富だが活用されていない

- ・ 地域には大学や指導者などの豊富な地域資源があるが、地域活動との結びつきが弱い。

##### まちづくりについて話し合い、学習する場がない

- ・ まちを住みやすく、活性化したいと思う気はあるが、悩みや思いを話し合う場がない。
- ・ まちづくりは法制度やいろいろな利害がからむため、専門的な知識が要求される。しかし、まちづくりに関する知識を系統的に学習する場がない。

##### 区民活動の交流の場がない

- ・ 区は区民参加で施設づくりを積極的にやっているが、区民活動の交流がなかなか生まれない。
- ・ 区民活動の交流・協力が生まれる場を持つ施設の在り方など、区民は事前に研究して意見を寄せればよりよいものになる。

##### 行政とコミュニケーションする場がない

- ・ 区が地域の課題やまちづくりに対してどのように考えているのか、区の情報が不足している。
- ・ 区と協働で幅広い分野でまちづくりを進めるための協議する場や受け皿がない。

#### ○目的

- ・ 様々な活動団体や区民が集まり、連携できる場をつくる。
- ・ まちづくりを気楽に話し合える場をつくる
- ・ まちづくりについて話し合い、学習する場をつくる

### 目標像

#### ○こうなってほしいというイメージ像

##### 区民の各種活動をコーディネートする人が生まれ、活動のネットワークが形成されている

- ・ 多様な活動のネットワークができ、互いに協力して、地域の課題に対応する地域力が強化される。
- ・ 系統的に地域の課題やまちづくりのことを話し合い、学習することで、まちづくりのための人づくりを行う。
- ・ 区民からまちづくりの相談や悩みごとなどを受け、解決に向けた活動の核となる。

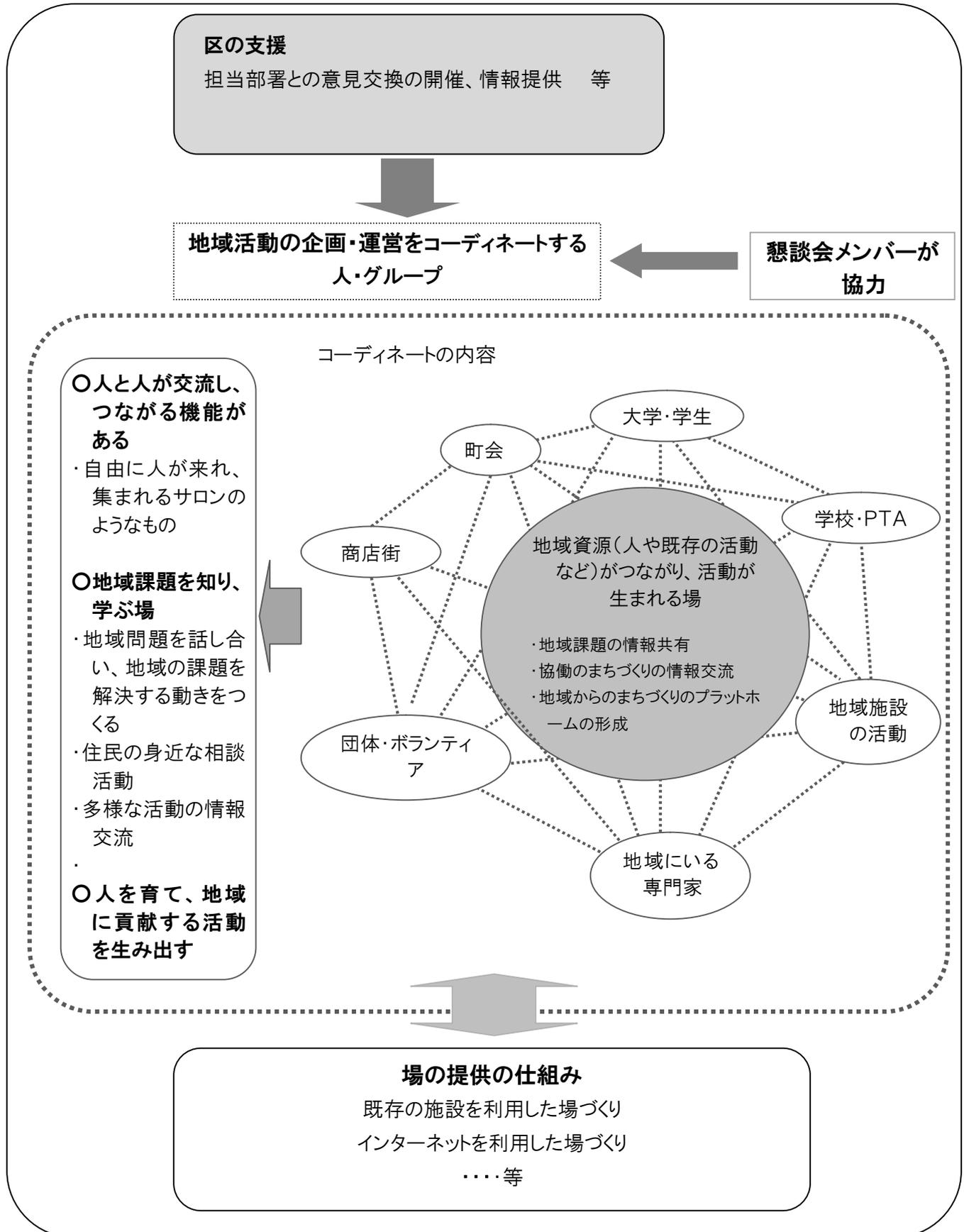
##### 地域の課題やまちづくりを区と区民が協働で解決する場がある

- ・ 区民が日ごろ感じている地域の課題や相談事を気楽に話すことができ、地域の課題解決に向け、区民が率先して取り組み、区と協働でまちづくりを行う場ができる。

##### 区や地域の事業者とともにまちづくりを協働で進めるためのプラットフォームができる

- ・ 地域活動のグループや区民がまちづくりの情報共有や交流ができ、互いに参加や協力ができるプラットフォームとなる。
- ・ 区や事業者、区民活動との連携を進めるキャッチャーとしての役割を担う人材が育成され、新しいコミュニティづくりの核ができる。

## 活動のイメージ



### ○活動目標のステップ

- ・ 第1ステップ: 人と人がつながる機能があるものをつくることとする。  
系統的に地域の課題やまちづくりのことを話し合い、学習できる場をつくり、まちづくりの核となる区民を探し、集め、つなげる。
- ・ 第2ステップ: 人々が集まり、地域の問題を話し合い、地域の問題を解決する動きをつくる、動きができる力をつくる。
- ・ 第3ステップ: 活動を通して、地域に貢献するいろいろな活動を生み出す。地域が安心して住める、地域に愛着を持つ、地域の人たちのよりどころとなるものをつくり上げる。

### ○懇談会のグループメンバーが核となり、コーディネートの仕組みを作り上げる

- ・ 自由に気楽に話せる雰囲気は重要であり、一方でそれを行うことの難しさを体験している懇談会グループのメンバーが核になって、まちづくりのコーディネートの仕組みを研究する場を持つ。
- ・ 地域の人に呼びかけ、地域づくりをコーディネートするまちづくり組織づくりを行う。
- ・ まちづくりの組織が核になって、地域活動が連携するまちづくりネットワークをつくる。

### ○介護と子どもをキーにして、地域の活性化と結びつけた活動をつくる

- ・ 将来は、幅広く、多種多様な活動になるが、当面の入口となる活動は絞る。
- ・ 一つは、高齢者が地域で安心して生活できるようにするため、高齢者世帯や高齢単身世帯を対象に、地域で見守る介護の形成を活動の柱にする。
- ・ もう一つは、地域でつながりの少ない若い子育てファミリーに対して、地域ぐるみで育児や育成を進めることを活動の柱にする。
- ・ メンバーの介護やPTA活動、育児の活動のネットワークを活用して活動の輪を広げ、町会や商店街などと連携し、まちに人が集まるような地域の活性化を図る。

### ○地元の活動に参加し、交流する

- ・ 地元の横断的で多様な人が参加するバザーや連合町会の盆踊りなどに参加し、ノウハウを蓄積し、活動に生かす。
- ・ 積極的に外に出て、地域からのまちづくりの活動を知ってもらい、また、交流する。

### ○場は特定せずに、活動テーマの内容で変えていく

- ・ 町会会館など一般の人が借りられる施設が多くあり、このような施設を活用して、当面、まちづくりの活動を行う。

## 活動の結果どうなるか？（事業計画のポイント）

### ○活動の提供者側にとってどう良くなるか

- ・ まちづくりを通して人々のネットワークができ、活動の幅と内容が広がる。
- ・ 活動が地域でより受け入れやすくなる。

### ○活動の利用者(特に区民)にとってどう良くなるか

- ・ 困ったことが相談できる、地域で協力・対応できる基盤ができ、地域が一層住みやすくなる。
- ・ みんなが知り合い、都会の中に故郷を再生する。

### (3)その他の提言

#### ○区民の声が集約され、反映される窓口と手続を明確にする

- ・ 区は、いろいろな部署で事業展開するに当たって、区民の声をよく聞いていることは承知しているが、それを総合的に生かす仕組みが必要だ。
- ・ 区民の声を正確に反映したよりよい区政を実現するため、区民の多種多様な意見や活動を取りまとめ、処理するための専任窓口と手続を行う担当部署を設置する。

#### ○区民の活動がつながり、新たな活動を生み出す施設づくりを目指す

##### 【施設づくりの白紙から区民が参加する手法を】

- ・ コミュニティ施設の内容を地域の要望に的確に応えたものとするため、施設づくりについて白紙の段階から、施設の持つ目的や役割などを区民参加の下でよく話し合うようにする。
- ・ 他区市町村の事例なども研究し、施設利用に関してソフト面とハード面の両面から検討して、地域に合ったコミュニティ施設を実現する。
- ・ 利用者の視点から考えた地域施設間の機能分担、又は、違う機能を持った施設間の連携等を図り、区民活動の新たな創造などを実現するための第一歩として、白紙の段階から区民参加によるコミュニティ施設づくりをすすめる。

##### 【活動している人のたまり場になるような場を】

- ・ 活動している人たちや地域の住民が自由に立ち寄り、交流ができる場がコミュニティ施設には少ないので、誰もが集まって利用できるオープンな区民のたまり場となる空間を重点的につくる。
- ・ 施設を利用する区民が知恵を出し合い、空間をつくり上げていき、人々が自由に集まって話ができるサロンのような広い場所から、区民主体の新しいサービスや活動を生み出すことが可能な施設づくりを行う。
- ・ 区民自らがサロンのようなたまり場をキーにして企画や活動を広報し、区民の活動の輪を広げる。

#### ○区の組織としてコミュニティ力を高める体制を強化する

- ・ コミュニティ力を高めていくために、町会に加え、より幅広い区民活動

を視野に入れた専任組織体制の整備を行うとともに、退職職員の活用などにより、取組を強化する。

### 3. テーマ3

#### <地域組織の連携と活性化のための仕組みづくり>

##### (1)提案の背景

###### ○町会の人材不足が課題

- ・ 地域には、様々な組織・団体があるが、コミュニティの活性化のためには、どの地域にもあり、多くの人・世帯が加入していることから、町会・自治会を核に考えたい。
- ・ しかし、役員の高齢化などから、新しい人材が不足しているケースがある。
- ・ また、区内には様々な団体、地域組織があるが、人材がそれぞれの分野で活動しており、地域や町会の活動において必ずしも活用されていない。

###### ○小学校区や町会連合会等、町会より大きな単位のコミュニティづくりの必要性

- ・ コミュニティを考える場合、各町会単位での取組のほか、より大きい単位で地域全体を考える視点がある。
- ・ 防災や青少年対策など、地域の課題の内容によっては、町会に加入している世帯も加入していない世帯も含めた地域ぐるみの取組が求められている。

###### ○地域コーディネーターの配置の必要性

- ・ 現在、各地域において様々な組織（地域の町会、PTA、学校、各種団体など）がそれぞれ活動を行っている。地域の課題に取り組むためには、様々な組織や行政などが連携を図ることが重要である。そのためのコーディネーターを地域に配置してはどうか。

## (2)事業計画

### タイトル

## “地域コーディネーター”による地域の活性化プロジェクト

### 現状と目的

#### ○現状の問題点等

##### 担い手の不足

- ・ 地域には、様々な組織・団体があるが、コミュニティの活性化のためには、どの地域にもあり、多くの人・世帯が加入していることから、町会・自治会を核に考えたい。
- ・ しかし、高齢化などから、町会をはじめとした各団体において新しい人材が不足しているケースがある。

##### 行政からの情報伝達不足

- ・ 行政からの情報が確実に区民まで届かないケースがある。また、地域にある様々な組織間の情報共有が不十分なケースがある。

### 目標像

#### ○こうなってほしいというイメージ像

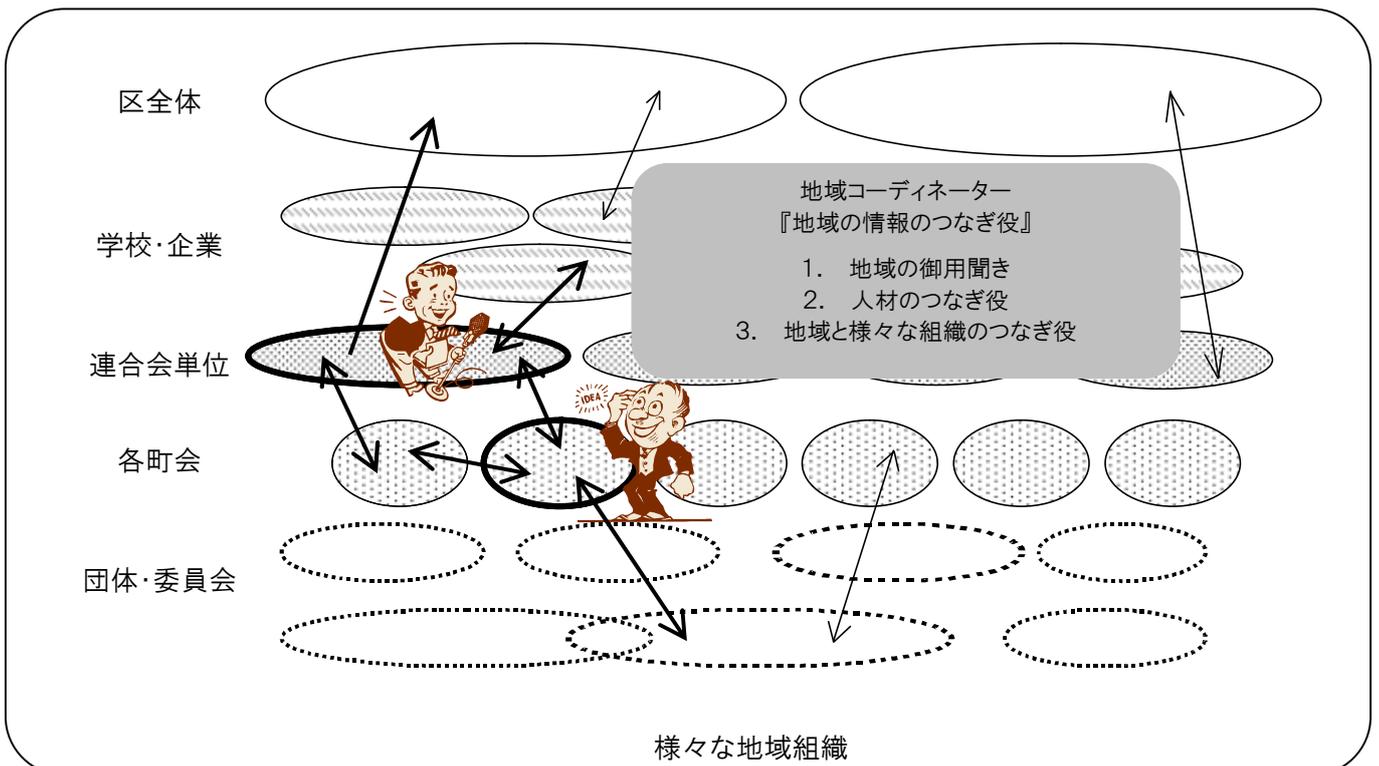
##### より大きな単位でのコミュニティづくり

- ・ コミュニティを考える場合、各町会単位での取組みのほか、より大きい単位で地域全体を考える視点もある。
- ・ 防災や青少年対策など、地域の課題の内容によっては、町会に加入している世帯も加入していない世帯も含めた地域ぐるみの取組みが求められている。
- ・ 新住民や若い世代が積極的に地域組織や団体の活動に参加している状態が望ましい。

##### 地域での活発な連携

- ・ 現在、各地域において様々な組織(地域の町会、PTA、学校、各種団体など)がそれぞれ活動を行っている。地域の課題に取り組むためには、地域の様々な組織間での情報の共有が図られることが重要である。

### 活動のイメージ



## ○ 地域コーディネーターの役割＝“地域の情報のつなぎ役”

### 1. 地域の“御用聞き”

- ・ こまめに各町会やその他の組織を回って、地域の状態を“診断”したり、“応援”したりするような役割。
- ・ 月に1回程度、“御用聞き”に回り、地域の困り事を把握する。
- ・ 行政や地域からのたくさんの情報について、必要かどうか、誰に伝えるべきかを判断して的確に伝える。

### 2. 人材のつなぎ役

- ・ 地域にたくさんいる様々な人材を紹介し、町会やその他の団体で活用するための媒介をする。
- ・ 地域組織の連携づくりの視点から、町会やその他の団体へアドバイスする。
- ・ 各種委員会の委員の人選を一緒に考え、様々な人材を発掘する。

### 3. 地域と様々な組織のつなぎ役

- ・ 様々な組織の情報を区民に上手く伝え、地域の課題の解決を手助けする。

## ○ 地域コーディネーターの人物像

1. 気軽に話せる、相談しやすい人
2. 地域の事情をよく把握している人
3. 時間的に余裕がある人
4. 新しい視点を持っている人

## ○ 連合会単位の地域コーディネーター＝「連合会コーディネーター」

### 【位置付け】

- ・ 大きな単位でのコミュニティ活性化を考えるため、各連合会に1～2名程度配置。
- ・ 常勤または非常勤の職員として配置。
- ・ 行政組織とその役割、行政サービスを良く理解しており、また、町会のことをしっかり把握できる、半分“行政のプロ”としてのコーディネーター。
- ・ 現在、区民事務所が行っている各種相談や相談窓口の機能を強化するような役割。

### 【役割】

- ・ 常に行政サービスの把握に努める。
- ・ 町会やその他各種団体の動向を把握する。
- ・ 連合会やそこに所属する町会の個別の事情の把握に努める。
- ・ 各「町会マネージャー」との連携を図る。
- ・ 連合会の町会長会議に出席する。

## ○ 町会単位の地域コーディネーター＝「町会マネージャー」

### 【位置付け】

- ・ ほとんどの情報が町会長に集まるため、町会単位に“地域コーディネーター”を配置する。
- ・ 地域の住民によるボランティア。
- ・ 住民の良き相談相手になれる人。信頼、人気のある人。
- ・ 「連合会コーディネーター」や他の「町会マネージャー」と連携を図れる人。

### 【役割】

- ・ 町会の“事務局長”のような存在。情報の風通しを良くし、町会運営を効果的に行えるようにする。
- ・ 行政からの大量の情報を仕分け、新たな人材を発掘するなど、町会長をサポートする。
- ・ 各種委員会や団体で活動している地域の人材がもっと地域で活躍できるようにするため、地域コーディネーターには、その情報を知る権限があることが望ましい。
- ・ 所属する町会の実情を把握する。
- ・ 住民からの相談などを受け付け、地域の課題を把握し、解決に協力する。
- ・ 連合会の町会長会議、町会役員会に町会長の補佐役として出席する。

## ○ 地域コーディネーターによる地域の活性化のための取組

### 1. 地域の情報交換の場

- ・ 町会の財務や総務などの実務をされる役員にも横のつながりがあるといい。上手くいっている町会の情報など、町会同士で情報交換ができる場があるといい。
- ・ 連合会同士が地域の課題や対策等について情報交換できる仕組みを持つ。

### 2. 自由で開かれた議論の場

- ・ 何らかの地域に関するテーマを持って呼びかけ、座談会のようなことができると、若い世代も興味があるテーマに集まりやすい。

### 3. 複数の町会同士の連携

- ・ 学校と地域の連携による行事や、複数町会による効果的な防犯活動などを行うために、地域コーディネーターのネットワークを活かす。

### 4. 若い世代と町会の接点として町会会館の利用促進

- ・ 子育て世代の母親が集まる場として、町会会館を使えるようになれば、町会と若い世代がつながるきっかけになる。現在でもひろば館が子育てサロン等に取り組んでいるが、各町会会館も、会員以外でも使えるようにし、もっと利用促進のアピールをする。

## ○ 地域コーディネーターを育て、広めるには

### 【実践とその活動、成果のPR】

- ・ 「育てる」ためには、とにかく「やってみる」「やらせてみる」しかない。
- ・ その上で、地域コーディネーターとの役割分担でもっと町会や地域が活性化できることを示す。
- ・ 地域コーディネーター同士の横のつながりをつくる場が必要だ。

### 【モデル事業の実施】

- ・ “連合会コーディネーター”を連合会に派遣することとし、モデル実施する地域を募ってみたい。
- ・ “町会マネージャー”については、「町会マネージャーがいるといい」ということを町会に伝えていく。

## 活動の結果どうなるか？（事業計画のポイント）

### ○活動の提供者側にとってどう良くなるか

＜町会やその他の活動団体にとって＞

- ・ 組織運営の活性化が図られ、より開かれた組織となることで、新しい人材との接点が増える。
- ・ 地域の人材が発掘され、他の団体同士の連携がスムーズになり、地域課題を解決するための活動が活発に行えるようになる。

### ○活動の利用者(特に区民)にとってどう良くなるか

- ・ 地域や行政の情報伝達：知りたい人に知りたい情報が届くようになる。
- ・ 地域の課題を気軽に相談しやすくなる。
- ・ 地域の課題を地域で解決する活動が活発になり、安心して暮らせる地域になる。



## IV. 総括

### 【活動内容について】

- ・ 平成21年度はグループ討議だけではなく、実際に地域活動をしている方へのヒアリングや意見交換を行い、事業計画を検討する上で非常に有意義な取組を行った。
- ・ また、年間で予定されていた懇談会以外にも、委員自ら議論の場を設けるなど、より実践的な活動が行われた。

### 【検討内容について】

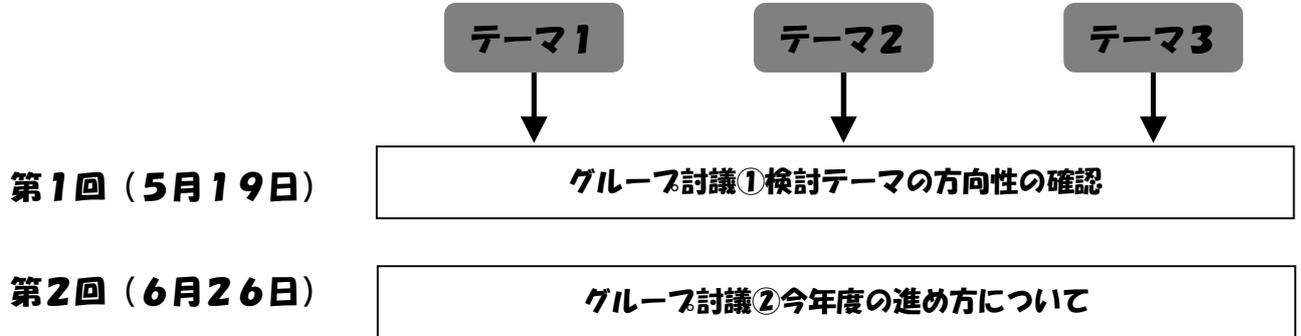
- ・ 「地域コミュニティを高める」という視点に基づき、3つのグループに分かれて議論し、事業計画の形で提言をまとめたが、すべてのグループの事業計画に共通しているのは、区民や行政を含めた地域の様々な主体が連携して取り組むための仕組みづくりが必要、という点であった。

### 【今後について】

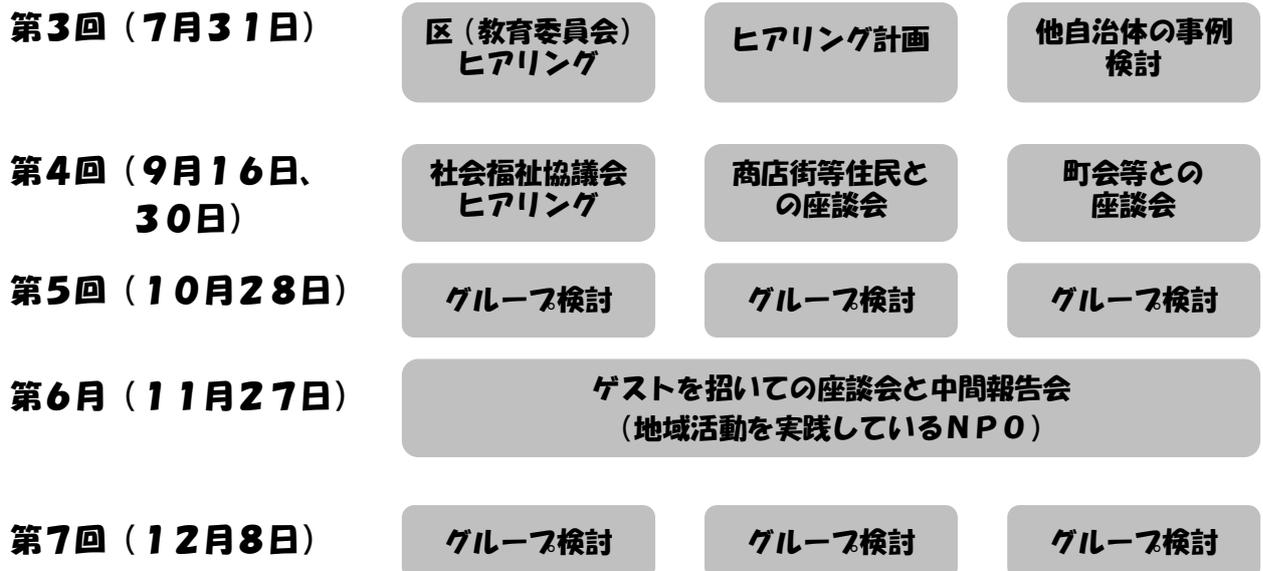
- ・ 今後は、これまでの議論を踏まえ、委員各自が関心のある分野の地域活動を、地域の様々な活動主体と協力しながら行い、地域コミュニティを高める取組を進めていきたい。
- ・ 区に対しては、今回の提言内容の検討を行い、区政への反映状況について報告することを要望する。
- ・ さらに、今回の提言内容及びそれに付随するような地域活動に対する更なる支援等を期待する。

## V. 活動経過

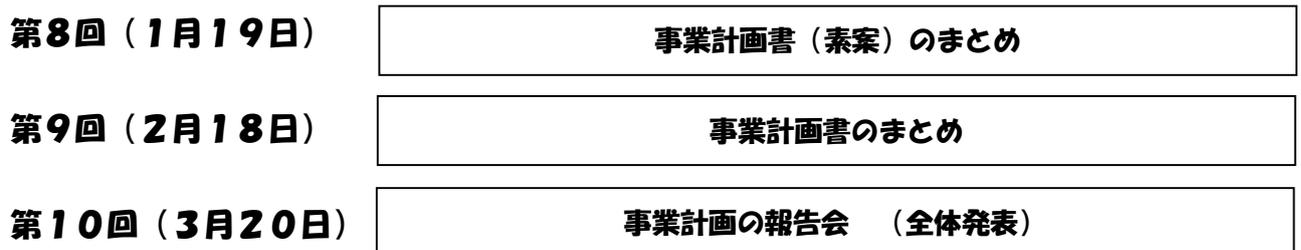
### 第1期 テーマと取組内容の検討



### 第2期 意見交換と具体化方策の検討



### 第3期 まとめ



## VI. 平成21年度荒川区区政改革懇談会委員名簿

テーマ1		テーマ3	
1	新井 妙子	1	浅見 隆弘
2	荒川 不二夫	2	安部 義治
3	石井 富江	3	小川 順一郎
4	井上 啓	4	加藤 徳美
5	大村 みさ子	5	斉藤 なみ
6	織田 邦雄	6	坂場 洋子
7	高見 和幸	7	櫻井 善忠(座長)
8	杉本 洋平	8	筑本 知子
9	手塚 薫	9	三浦 眞佐恵
10	樋田 武	10	山川 モモ子
11	山田 眞人志	11	吉澤 陽美
テーマ2		12	鷲見 志雄
1	牛丸 美代子		
2	岡野 正隆		
3	川村 絹恵		
4	神達 五月雄		
5	小山 博		
6	高橋 明弘		
7	中城 正憲		
8	村田 記代子		
9	山崎 律子		

敬称略・五十音順